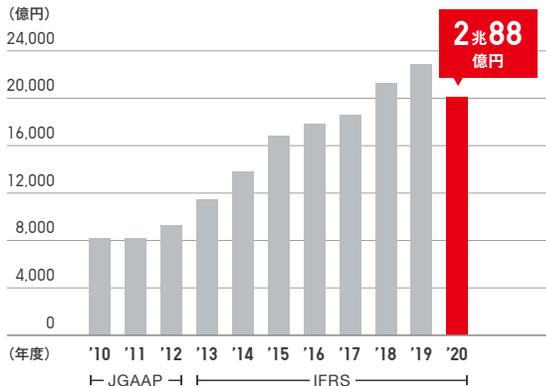


2020年8月期：財務ハイライト

FY2020 FINANCIAL HIGHLIGHTS

売上収益

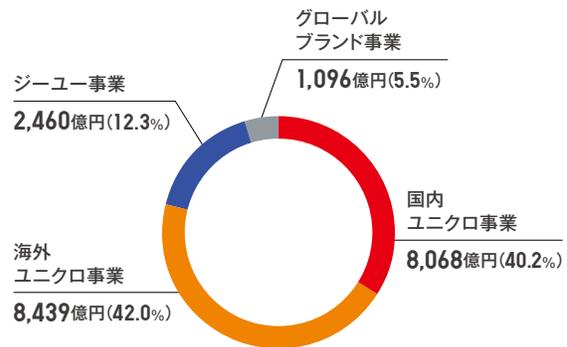
2兆88億円 ▲12.3%



売上収益は2兆88億円、前期比12.3%減。新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響で、グローバルで店舗を臨時休業したことや、外出自粛により大幅な減収。ただし、6月以降は、日本とグレーターチャイナを中心に売上は回復基調。

海外ユニクロ事業の売上構成比

42.0% ▲2.9pt



海外ユニクロ事業の売上構成比は42.0%、前期比で2.9ポイント低下。主に、新型コロナなどの影響により、事業規模が大きいグレーターチャイナ、韓国の減収幅が大きい。

営業利益

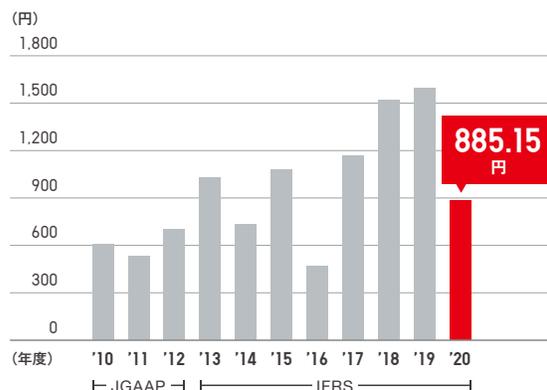
1,493億円 ▲42.0%



営業利益は1,493億円、前期比42.0%の減益。新型コロナの影響に加え、海外ユニクロ事業を中心に店舗などの減損損失を230億円計上したことにより、大幅な減益。

基本的1株当たり当期利益 (EPS)

885.15円 ▲44.4%

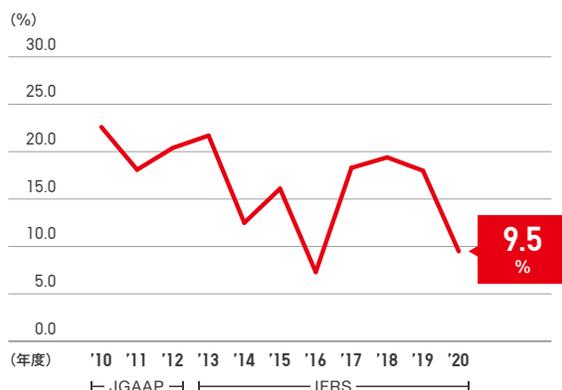


営業利益が大幅な減益になったことにより、基本的1株当たり当期利益 (EPS) は885.15円、前期比44.4%減。

ROE

9.5%

▲8.5pt

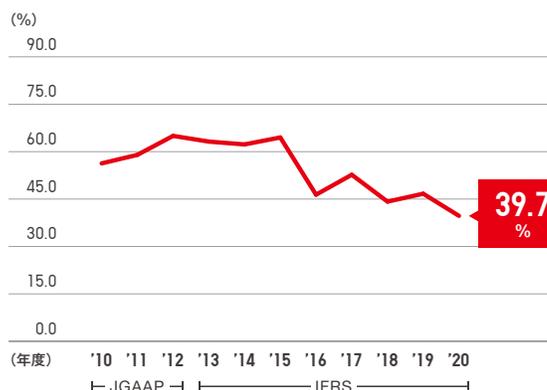


ROEは9.5%と、前期比8.5ポイント低下。親会社の所有者に帰属する当期利益が同44.4%減と、大幅な減益となったため。

親会社所有者帰属持分比率(自己資本比率)

39.7%

▲7.0pt

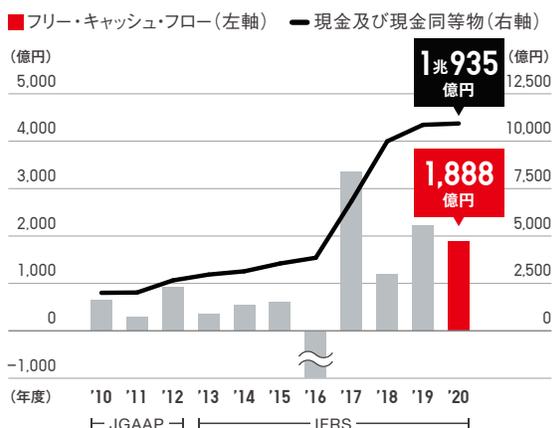


自己資本比率は39.7%と、前期比7.0ポイント減。IFRS16号を適用したことにより、バランスシートに使用権資産が計上されたことで、資産合計が3,999億円増加したため、自己資本比率は低下。

現金及び現金同等物

1兆935億円

+0.6%



営業活動(2,648億円の収入)と、投資活動(759億円の支出)を合わせたフリー・キャッシュ・フロー(FCF)は1,888億円のプラス。財務活動は1,832億円の支出となり、現金及び現金同等物の期末残高は1兆935億円となる。

※2016年8月期のFCFがマイナスとなったのは、投資活動の支出に3ヶ月超の定期預金による支出1,865億円が含まれていたため。

1株当たり年間配当金

480円

±0円



1株当たり年間配当金は480円。親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比で大幅な減益となったものの、中長期での事業の成長性や、当面のキャッシュ・フローを鑑みて、前年と同額の配当を維持。これにより、配当性向は54.2%となる。

※2016年8月期の配当性向が高い要因は、円高の影響で金融損益がネットで370億円のマイナスとなり、EPSが大幅に減少したため。